

3月21日は「バルブの日」

バルブ・水栓 特集

一般社団法人日本バルブ工業会は 本年、創立70周年に

3月21日は 『バルブの日』

バルブ産業の地位向上を目指し日本バルブ工業会(会長=西岡利明氏・SANET社長、同工業会本部所在地=東京都港区)は、その発足日である3月21日を「バルブの日」として制定した。そして2024(令和6)年3月21日に同工業会は創立70周年を迎える。同工業会が考える現在の課題とは、バルブ産業そのものの社会における認知度の向上だ。バルブ業界を志す若者が増えるよう、そして、バルブ産業に携わる人たちがより大きな誇りをもって働けるよう、同工業会は今後も様々なカタチでバルブ産業のPRに努めていく。

バルブってなに?

我々の生活のなかで一番身近なバルブは水道の蛇口だ。水を飲みたい時には蛇口を開けて水を出し、出し過ぎたかなと思ったら少し閉め、コップに水を注ぎ終わったら蛇口をきっちり閉めて水を止める。このように我々は水道の水を思った通りに流したり、止めたり、量を調整したりすることができる。普段の生活ではあまり目につかないかもしれないが工場やビル、車や船や宇宙ロケットのなかでこれと同じことをしているバルブはたくさんある。ただし、このような場所で使われるバルブは、日本語では「弁」と呼ぶ。その使い分けの基準についてはあまり厳密なルールがあるわけではないが、安全弁、調整弁、スプリング弁のように何かの修飾語が付く場合には「弁」を用いることが多く、単独で用いる場合は「バルブ」

能登半島地震被害「義援金」報告

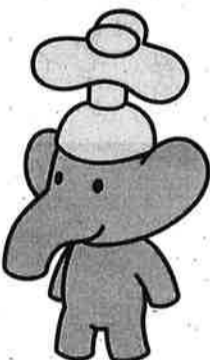
日本バルブ工業会が会員企業宛に募集案内した「令和6年能登半島地震被害義援金」について多くの会員企業から賛同を受け、合計5000万円の義援金が集まったと報告があった。同工業会は「皆さま

心よりのお祈り申し上げます」とコメントを発表している。

【令和6年能登半島地震被害義援金】
募集期間 2024年1月23日(火)～2月7日(木)
義援金総額 5003万円(会員企業34社、関係者1名 ※1口/1万円)
義援金振込日 2024年2月9日(金) / 日本赤十字社宛
義援金申込会員企業等(50音順) △アイエス工業所△江戸川バルブ・プロジェクト△オーエヌ工業△オーケイ△エム△カクタイ岐草工場△キタムラフオー

セツト△キッツ△共栄バルブ工業△KVK△河南バルブ工業△光陽産業△コンサ△SANA E△V△三協製作所△清水合金製作所△スリーエム工業△善光金属△タフチ△TOA△TVE△ティヴィバルブ△ティエル△イム△東工△パレックス△東洋パ

ル△V△日邦バルブ△日本レジャー工業△日本ボールバルブ△福井製作所△前田バルブ工業△水生製作所△宮部鉄工△ミヤキ△大和バルブ△ワシントン機器△高橋浩二公認会計士(個人寄付)
同工業会ウェブサイトでも確認できる。



一般社団法人日本バルブ工業会

「バルブ? 弁?」
呼び名はどっち?
バルブは、日本語では「弁」と呼ぶ。その使い分けの基準についてはあまり厳密なルールがあるわけではないが、安全弁、調整弁、スプリング弁のように何かの修飾語が付く場合には「弁」を用いることが多く、単独で用いる場合は「バルブ」と言っている。いろいろな種類があるバルブの呼び方でメーカーやユーザーが混乱しないよう、JIS(日本工業規格)では一定の呼び方を定めているが、これも規格のタイトルには「バルブ用語」なのに、なかに出てくる用語は水栓関係のものを除けば、ほとんどが「〇弁」となっている。一方、縁の下の方持として我々の暮らしと産業を支えてくれる、それがバルブだ。(同工業会ウェブサイトより抜粋)

バルブはいつから使われている?

バルブの起源を辿ると紀元前1000年頃の古代エジプトの遺跡から発掘されたコック(樽につけている栓)のことで、バルブの一種と推定される木製のものが遡ることできる。古代ローマ時代には既に貴族の家に水道のパイプが敷かれ、その出口には青銅製のコックがついていた。金属製のバルブは2000年以上も前から実用化されていたのである。水道だ

けでなく船でも使われていたようだ。我が国では酒樽の栓などはかなり古くから使われていたが、金属製のバルブが登場したのは1863(文久3)年、紡績用のホイヤーが輸入されたとき一緒に入ってきたのが最初と言われている。国内で製造されたのは明治に入ってからで、横浜市が1885(明治18)年に水道事業を開始、続いて東京ガスの事業化などによりバルブ製造工場がいくつかあるようになった。大正の初期までは、水道

前かもしれないが、そうした傾向はあるようだ。ちなみに、水道の蛇口は正しくは「給水栓」だ。水回りのバルブの多くは「〇〇栓」(例えば、止水栓、分水栓)という呼び方をされる。結局のところ、その呼び方を定める人が多くなく、呼び名が定着するまで、今後も変わっていくかもしれない。

環境配慮バルブ登録制度について

日本バルブ工業会は、2007(平成19)年に「ガス・紡績用の青銅弁が需要の中心だったが、第一次大戦後に我が国の産業が急速に発展するのに合わせて、鉄製・鋳鋼製のバルブも作られるようになった。第二次大戦後には復興建設資材として設備の高度化を支えるためにいろいろな種類が生み出され、その用途も拡大していった。

環境配慮バルブ登録制度

策定した「バルブ産業ビジョン」において、将来のバルブ産業のあるべき姿を描いている。それが、環境配慮設計基準(含有有害物質規制、リサイクルルール構築、LCA管理など)に基づくモノづくりを行っているバルブ産業としてのありべき姿である。この将来像を具現化し、全産業規模で環境保全に寄与すること、また、環境配慮設計に取り組んだ同工業会会員企業の製品の内外へのアピール、環境負荷の少ない製品の需要喚起・

バルブ女史ネット

ワークについて
人財育成の取り組みの一環として、女性人財の活躍、女性にやさしい環境づくりを進めるため、2017(平成29)年に日本バルブ工業会内に発足した組織が「バルブ女史ネット」である。そのメンバーは、『女性の感性とモチベーションでバルブ業界の発展に貢献しよう』をスローガンに、同工業会の会員企業に在籍している女性社員のみで構成されている。バルブ女史ネットは2ヶ月に1回のミーティングや、年に1回の見学会・講演会などを開催。これらの活動を通じて、女性がいきいきと仕事にやりがいを持って働けるよう、

式・電気式のキッチン用バス用・洗面用・その他用) ●止水栓 ●分水栓。本制度に登録される製品はすべて、会員企業が自社従来製品(従来品)の場合には新規設計目標値)との相対比較により「環境側面を自己評価した製品である。着目すべき環境への影響は以下

に、同工業会の会員企業に在籍している女性社員のみで構成されている。バルブ女史ネットは2ヶ月に1回のミーティングや、年に1回の見学会・講演会などを開催。これらの活動を通じて、女性がいきいきと仕事にやりがいを持って働けるよう、日々活動している。



環境配慮バルブ登録制度
ラバル

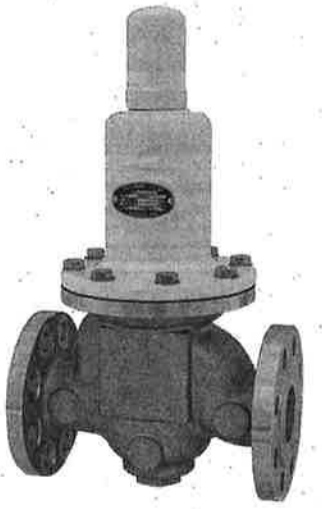
ベ ン

高圧用減圧弁に新ラインアップ 「RD-55型」発売

桃のマークでおなじみのバルブメーカー・ベン(社長=鈴木一実氏、本社=神奈川県横浜市)は、2018年に発売した高圧用減圧弁「RD-55型」(チイロンコ)に、接続部ステンレス鋼製の高圧用減圧弁「RD-55型」をラインアップに追加した。

高圧用減圧弁「RD-55型」は、接続部ステンレス鋼製の高圧用減圧弁「RD-55型」をラインアップに追加した。昨今の高層ビルや高層マンション化によって給水設備も高圧化需要が進

の仕様は以下の通り。
●呼び径 50・100。
●適用流体 水・温水・材料を腐食しない液体。
●一次側適用圧力 2.0MPa以下。●端接続 JIS 16K・20K(共用) R/Fフランジ。●材質 本体(SCCS)、バネケース(FC)。その他の詳細な仕様や販売価格など、詳しくは、同社名古屋営業所へお問い合わせください。電話 052-411-5840、もしくは同社静岡出張所へ電話 054-297-5488へお問い合わせするか、同社ウェブサイトへアクセスを。



新製品「RD-55型」



バルブ女史ネットワーク